

2025 年度 高等学院同窓会学術研究奨励金 研究成果報告書概要（WEB 公開用）

高等学院長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [大枝 光輝]

学年・組・番号 [1 年 E 組 14 番]

研究課題： 久留里線の存廃と地方の未来とは ～実地調査、アンケート調査を基にした考察～

（英文） The Future of The Kururi Line and The Region
:Observations Based on Field Surveys and Questionnaire Surveys

研究概要：

（研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について 200～400 字で記入してください）

千葉県南部を走る久留里線。この路線の久留里駅から上総亀山駅では、鉄道路線の廃止が確定的であり、バス転換の議論が進んでいる。しかしこの廃止方針について、一部住民からは不満の声が上がっている。そこで本研究では、「久留里線の廃止という判断は妥当なのか」という疑問から、検討を行った。具体的には、「駅の調査」、「利用者数の調査」、「アンケート調査」を実地調査として行った。駅の調査では、駅構造や設備の面から、鉄道の利便性の分析を行った。利用者数の調査では、各駅間の利用者数を比較し、廃止方針が出ている区間との差を調査した。アンケート調査では、性別・年代などの基本属性を明確にしたうえで、久留里線の廃止について、バス転換後の懸念点や望まれるサービスについてアンケート調査を行った。このような調査結果をもとに、久留里線の将来、そして地方交通の将来的な在り方について考察を行った。

研究成果

（研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について 200～400 字で記入してください）

最初に駅調査の結果についてである。駅にはベンチや時刻表などの最低限の施設は整備されていたものの、バリアフリー化が進んでいない駅が多数存在した。次に、利用者数調査の結果である。久留里駅から上総亀山駅間では、木更津駅から久留里駅間と比べ、利用者数が著しく少なかった。そして、日常利用よりも観光目的や鉄道ファンによる利用が多い傾向が見られた。最後にアンケート調査の結果である。久留里線については、廃止に反対する意見が多く寄せられた。バス転換後の懸念点として、「時間がかかる」「運賃が上がる」「乗り換えが増える」といった声が挙げられた。一方で、「運行頻度の多さ」や「交通系 IC カードの利用」を求める声が多かった。さらに、「久留里線と地域を守る会」の方からも意見を頂き、バス転換には多くの課題があることが明らかとなった。以上の結果から、住民の意見を最大限尊重した、地域交通の実現が重要であると考えた。

研究者：（以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する）

研究代表者 大枝 光輝

研究分担者

担当教諭 柿沼 亮介先生 （受給額： 20,000 円）

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名が WEB ページ上で公開されることに同意します
（次のページに続きます）

研究成果写真：

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)



以上